

生活科理科 分科会

1年

「あきとなかよし」



成果 と 課題

<成果>

児童

・すいせんの水あげをしっかりとったり、昆虫などに興味をもつようになり、生き物との関わり方が豊かになった。

・季節の変化を感じるようになり、毎日「今日の最高・最低気温チェック」を行うようになった。

・仲間との交流の経験から、一人で遊ぶより、他者と関わりながら遊ぶ機会をつくって遊ぶ姿が多くみられるようになった。

教師

・教師が地域の自然環境を見直すきっかけとなり、理科委員会活動では冬芽を写真に撮ったり、樹木名プレートをつくるなどの活動を行い、より深く児童に地域の自然環境を感じ学んでもらいたいと思うようになった。

・3年生では、生活科からの理科や社会科の流れを確認し直し、国語の研究授業の成果である調べる学習と合わせて、総合的な学習の時間を、より教科と関連させた探究的な学習活動を行った。

<本時の様子>

どのような工夫をしますか。

生物の多様性や共通性を感じることができるよう、季節感や素材の質感の違いを五感を使って感じられるようなはたらきかけをしました。

いい匂いのする葉っぱを見つけたよ！

あんなところにカラスの巣がある！！毎日通っているけど、初めて知った。



たくさん釣れて楽しいな！！



ふかふかしていて気持ちいい！



<課題>

・児童の変容を把握する視点として、多様性と共通性という生命領域固有の見方考え方は生活科を一貫しているものではないため、この視点で変容を把握することは難しい。

・多様性と共通性という見方考え方を生命領域に限らず、社会的な視点でも活用していくことが必要である。

・交流場面では子供たちの「伝える力」の育成が課題となった。発達段階に応じて「伝える力」の育成を目的とした発表活動の6年間の指導方針の系統性の作成が求められる。